



地域ボランティアプログラム

里山保全 ボランティア ～首都大で 竹を切ろう～

報告

2018/01/21

里山保全ボランティア～首都大で竹を切ろう～

1月21日（日）、本学独自の活動「地域ボランティアプログラム」の体験イベントとして、「里山保全ボランティア～首都大で竹を切ろう」を実施しました。このイベントは、自分たちが活動するだけでなく、多くの大学生や高校生にも里山保全ボランティアを体験してほしいとの思いで、2年目の学生（サポーター）が中心となり、1年目のメンバーと一緒に学生たちの自主企画として実施しました。

今回は、残念ながら、高校生・高専生の参加はありませんでしたが、学年も所属も様々な首都大生5名の応募がありました。当日は1名欠席でしたが、地域ボランティアプログラムメンバー名を合わせた11名で活動に取り組みました。

・「里山と松木日向緑地」について

ボランティアプログラムメンバーの経験者が、参加者に対して、なぜ里山の保全のために竹を切るのかについて説明をしました。

成長の早い竹を放置しておくと、どんどん竹が生い茂り、他の広葉植物が日光を得られなくなるために育たず、美しい里山の風景が失われてしまいます。

実際に松木日向緑地に入って説明を受けることで、目の前の竹の量や大きさに圧倒され、強く印象付けられました。

・竹の間伐作業

地域ボランティアプログラムメンバーが中心となって、竹の間伐作業のデモンストレーションを行いました。慣れた手付きで竹をあっという間に切る様子を見て、参加者は感心している様子でした。グループに分かれての作業も、経験者が初心者のそばについて竹の切り方を丁寧に教えるなど上手くサポートし、良い雰囲気でした。

作業を通して、初対面の参加者を含め、全員が交流を深めました。各グループについてくださった「ひなた緑地遊学会」の方々は、真剣な中に笑いあいの作業をあたたく見守ってくださいました。遊学会の方々の的確なアドバイスは、以前に参加経験のある学生の耳にも新しく、助けになるもので、作業終盤には学生たちの竹を切り枝を落とす技術はかなり向上したように見受けられました。

・竹の有効活用①～青竹踏み～

昼食休憩を挟み、午後は切った竹の有効活用に向けて、「青竹踏み」づくりと「竹炭」づくりに取り組みました。ここからは、遊学会の方々と解散し、地域ボランティアプログラムメンバーを中心に学生だけで実施しました。

青竹踏みとは、節が2つ入る位置で竹を半分に割ったもので、上で足踏みをすることによって足裏から血行が促進されるという昔から親しまれてきた健康器具です。参加者のお土産にもちょうどよいということで、今回の竹の有効活用は青竹踏みづくりに決めました。

午前中の作業でノコギリの扱いに慣れているため、作業はスムーズに進みました。実際に使うことを考えて丁寧に作りました。切った竹を火で加熱することで表面から油が出るので、それを伸ばせばニス代わりになります。完成した青竹踏みは長く使えるように、昔からの知恵を生かして加工しました。

・竹の有効活用②～竹炭～

残った竹は竹炭にします。里山を生活のために利用する感覚は現代の人々にはほとんど残っていませんが、竹炭は除湿や脱臭のために現在でも広く用いられています。

竹を決まった長さに切り、専用の道具で四つ割りにしますが、見慣れない道具と長い竹が一気に割れる迫力に、最初は腰が引けていました。切った竹は竹炭にするために今後焼かれますが、当日は前回作った竹炭を窯から取り出し、実際に完成品を見ることができました。窯も首都大の教員の手づくりだと言いました。

・まとめ

里山保全活動として竹を切ると言う、竹が里山にとって悪者であるかのように考えがちですが、切った竹の有効活用方法を知ること、実際には竹も山の資源であるということを改めて感じました。参加した学生にとっては、里山を利用した文化や技術を後世に伝え、里山を新たな遊びや学びの場として現代の人に役立てようという里山保全活動について知る貴重な機会になったことでしょう。



参加した学生の感想

「どうして竹を切らなければならないのか、実際に目で見て体験することによって理解できました。」「初めてボランティア活動に参加して、新鮮な体験ができました。自分自身このような活動をしている学生の存在を知らなかったので、ボランティアをしている学生の活動を大学や地域に広めたいと思います。」



完成した青竹踏みを持って集合写真

活動を通じて、里山はバランスが重要で、様々な植物が共生できるように手入れをすることの重要性がわかりました。

参加者たちの個性もなかなかよいバランスだったのではないかなと思います。半日強、行われた活動を通じ、参加者同士親睦を深めてくれました。本活動を通じてできたつながりをきっかけに今後もボランティア活動を行っていただければと思います。